

NPO 法人 外国から来た子ども支援ネット くまもと

2018年度 活動報告

活動内容

NPO 法人 外国から来た子ども支援ネット くまもと では、外国にルーツを持つ子どもたちを対象に、以下の4つの活動を行っています。

① 日本語指導



② 進路サポート



③ 仲間づくり



④ 学習支援と居場所づくり



- 1) おるがったステーション
- 2) 非漢字圏から来た児童生徒のための漢字学習会
- 3) ひだまり日本語教室

① 日本語指導「くまもとこどものにほんご」

委託自治体数

10 自治体

児童生徒数

47 名

2018年度は、菊陽町、菊池市、合志市、大津町、宇土市、山鹿市、玉名市、人吉市、美里町、南小国町の10自治体から日本語指導委託を受けました。また、委託児童生徒数は2019年3月現在で47名でした。ルーツは中国、フィリピン、インド、アメリカ、シリア、ベトナム、ネパール、シンガポール、日本（海外帰国児童生徒）です。

小中学校で日本語指導が行われている
熊本県の自治体（全45自治体中）

1) NPO 法人 外国から来た子ども支援ネットくまもと がこれまで委託を受けた自治体（計16自治体）

菊池市、合志市、宇土市、宇城市、山鹿市、玉名市、人吉市、
大津町、南小国町、氷川町、菊陽町、益城町、山都町、美里町、
津奈木町、南阿蘇村

2) 市独自で日本語指導を実施している自治体（計2自治体）

熊本市、八代市

指導対象の子どもが一人という自治体もあり、県内各地に点在する子どもたちの受け入れの必要性が、広まってきているといえます。2018年度に新たに指導を始めた子どもは、4月よりも9月の方が多くなりました。年度途中でも速やかに受け入れ態勢を整えることが、今後必要になっていくと思われます。

また、活動当初は来日したばかりの子どもたちに日本語の基礎を教える「初期指導」がメインでしたが、最近ではダブルリミテッド（2つの言語どちらも年齢相応の言語能力がっていない状態）の指導も増えてきました。これは、学校の先生方の外国ルーツの子どもたちに対する問題意識が高まり、言語的な問題が学習に支障をきたしているという認識が広まったこと、各自治体での外国ルーツの子どもたちの状況調査やレベルチェックによって、日本語指導の必要性が客観的に判断できるようになったことなどが大きな理由だと考えています。



①-2 外国ルーツの子どもへの日本語の教え方と受け入れ講座

日本語支援が必要な子どもは、言語だけではなく、在留資格、家庭環境、宗教などの様々な背景をもち、それぞれの問題を抱えています。彼らが安心して学校生活が送れるように、受け入れのための知識や注意する点、日本語の効果的な教え方などを一緒に考えました。それぞれの学校や地域教室で日本語支援に関わっている方々が集い、知恵を出し合える機会となりました。

●参加者の声

担当する特別支援学級にも外国ルーツの子が入級してきているが、日本語能力の検査もあり実際の学力よりも低く評価されているのではないかと感じる。ダブルリミテッドの話を聞き、あの子もそうではないか…と思う子もいる。現場でできること、行政に伝えていくべきことがたくさんあると感じた。(小学校教諭)



国籍と在留資格のこと、制度的なことを聞いて大変参考になった。熊本市センター校の先生のお話も大変勉強になることが多かった。(日本語教師有資格者)

●講座内容

第1回 (2019/1/26)

「子どもへの日本語の教え方」

第2回 (2019/2/23)

「外国ルーツの子どもたちの受け入れについて」



②進路サポート

2018/7/8

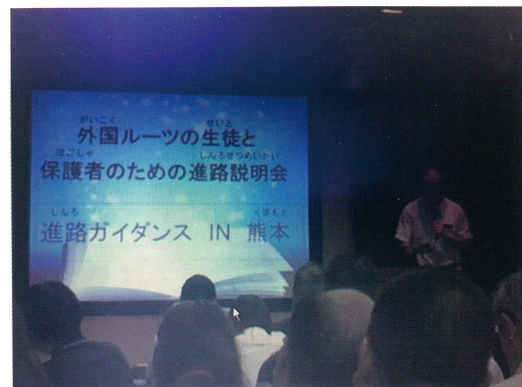
「第13回 外国ルーツの生徒と保護者のための進路ガイダンス」を開催！

外国から来た生徒や保護者は、日本の高校入試の制度についてほとんど知りません。特に両親とも外国人の場合、言葉の問題もあり、子どもの状況を把握できないために不安を感じる保護者も少なくありません。

進路ガイダンスでは、教育委員会、中学校、高校の先生方が入試制度の説明を行い、個別に具体的な相談を受けています。

実施内容

- 第1部 高校入試の制度・学費・奨学金の説明
- 第2部 先輩や保護者の体験談共有
- 第3部 個別相談
(その場で高校や中学校の教師や先輩に相談)



参加人数

98名



< 進路ガイダンス参加者の声 >

私は3年生になってたくさんのことをまだ知らないで、今日の話し合いで不安なことやよくわからないことを聞いて、少しでもわかるようになりました。(中学生)

中国ルーツの生徒が通う中学校に勤務していますが、中学校生活がスムーズに送れているのかばかりに注目して、進路選択に向けた具体的な細かいことにまで目が向けられていなかったと思いました。入試の特別措置や特別配慮を申請するためには、中学校生活でも日常的に支援体制を整えなくてはならないことを学校全体で共通認識としていきたいと思います。(中学校教諭)

③ 仲間づくり

2019/3/23~24

「第12回 九州外国ルーツの生徒交流会 in 熊本」を開催！

外国にルーツを持つ子どもたちは各地に散在しており、お互いの思いを語り合える場所には限られています。同じ立場の生徒たちが、共に集い、母語で話し合えることでお互いの夢や悩みを共有し、自身の存在に誇りを持てるきっかけになるように、毎年この交流会を企画しています。また、さまざまな立場で子どもたちと関わっている大人も集まり、情報交換をする場となりました。また、今年度は佐賀県からの参加もあり、交流の輪を広げる貴重な機会となりました。

開催趣旨

- 1) 熊本県内に散在している外国ルーツの生徒の悩みや進路の相談ができるネットワークづくりや仲間づくりの場
- 2) 外国ルーツの生徒を担当している学校の担当者や日本語指導者の情報交換
- 3) 九州全体で外国ルーツの生徒たちや支援者のネットワークづくり

参加人数 **62** 名



④ 学習支援と居場所づくり

1) 「おるがったステーション」

「おるがった」は熊本弁の「私たちの家」の意味です。「ステーション」＝「帰るところ」という意味も込めて名づけられた、外国ルーツの子どもたちの学習の場です。

来日直後の子どもたちには、日本語の初期指導をし、初期指導が終了している子どもたちには、学校の授業の内容を中心に国語や算数(数学)などの各教科の学習サポートを行っています(宿題のサポートを行うこともあります)。10~15名の子どもたちと、サポーター4~5名がほぼ毎週参加しています。

● 学習会 @ 熊本市国際交流会館

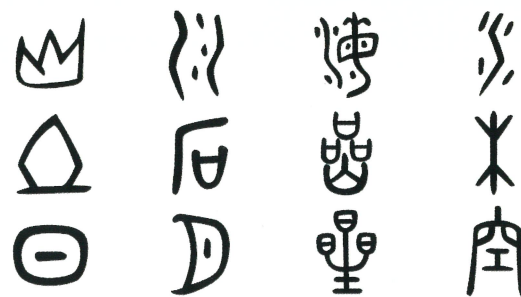
毎週日曜日 10時~12時: 中学生教科学習
13時~15時: 小学生教科学習 / 日本語初期指導

● 学習会 @ 事務局

毎週土曜日 13時~: 小中学生教科学習
長期休暇 随時: 小中学生教科学習

2) 非漢字圏からきた児童生徒のための 「漢字学習会」2018/8/19

アメリカやフィリピンなど非漢字圏からきた子どもたち向けの漢字学習会です。熊本市国際交流会館にて、当団体の大学生部「@ほーむ」に所属する大学生5名が企画運営をしました。非漢字圏からきた小学生と中学生4~5名が参加し、ゲームなどを交えて、楽しく漢字を学習しました。



3) 「ひだまり学習会」

毎週水曜日の19時~21時に、鹿本市民センターひだまりで行っています。山鹿市に在住、または勤務するサポーター約5名が中心となり、小学生から大人まで約10名の学習者に日本語指導や教科学習のサポートなどを行っています。



2019年度活動予定

- ①「第14回外国ルーツの生徒と保護者のための進路ガイダンス」2019年7月7日(日)
- ②「非漢字圏からきた児童生徒のための漢字学習会」長期休暇中(夏、冬、春) ※日程未定
- ③「第13回九州外国ルーツの生徒交流会 in くまもと」2020年3月28日(土)~29日(日)
- ④「おるがったステーション」
 学習会@熊本市国際交流会館 毎週日曜日 10:00 ~ 15:00
 学習会 @ 事務局 毎週土曜日 13:00 ~
- ⑤「日本語指導者研修会」 毎月第3土曜日 14:30 ~ 16:00

お願い

NPO 法人 外国から来た子ども支援ネットくまもと は、外国にルーツを持つ子どもたちの明るい未来を作るために、日本語指導をはじめ、様々な支援を行っています。自治体の委託事業である「くまもとこどものにほんご」以外の、子どもたちの居場所づくり、学習支援に関しましては、多くのボランティアの方々のお力と、皆様のご寄付・ご支援により成り立っております。いただきました寄付金は、子どもたちの学習の場の会場費や、学習教材費などに使わせていただいております。今後とも何卒お力添えをお願い致します。

口座振込で寄付をする

ゆうちょ銀行 (金融機関コード:9900)
 一七九店 当座 165967
 口座番号 : 01760-3-165967
 NPO 外国から来た子ども支援ネットくまもと

クレジットカードで寄付をする

<https://syncable.biz/associate/shiennetkumamoto>



←寄付ページ QR コード

NPO 法人 外国から来た子ども支援ネットくまもと

〒861-1102 熊本県合志市須屋 3120 番地 9
 代表 : 竹村 朋子 (たけむら ともこ)
 Eメール : shiennetkumamoto@gmail.com